

公民館運営にかかる課題と対応策

講座・利用者の固定化・高齢化

内容のマンネリ化が見られる。講座、地域イベントなどに参加するメンバーが固定化及び高齢化しており、若者の参加が少ない。

公民館の利用に制限がある

社会教育法に基づく施設のため、営利目的は対象外など制限がある。

公民館長の担い手不足

地域推薦により選出しているが、定年延長などにより、次の公民館長のなり手がいない。

地域と公民館のパイプとして行政職員の配置について支援を求める声がある。

地域運営(自治会)の負担が大きい

行政からのお知らせなどを紙ベースの回覧板で実施している。自治会長が班ごとに仕分けをしてから回覧。

①SNSを活用した広報を実施

→若年層へのPR、呼び込み

- ・Instagramを活用した広報
- ・SNSを使用できる人材の登用や人材育成

資料1-1

②開催講座の多様化

- ・開催テーマや回数を緩和し、地域性に沿ったものとなるよう多様化を図る

資料2,3
P2～P15

③子ども世代が使いやすい公民館へ

- ・自習室開放への取組
- ・地域組織を中心とした子ども事業との連携

資料4
P16～P27

④公民館の運営について（課題整理）

- ・柔軟な利用に向けて利用目的や開館時間など公民館運営のあり方を今後検討していく。

資料5
P28

自治会運営支援アプリを導入

- ・自治体からのお知らせや自治会内の連絡等の配信
- ・公民館だよりなどの情報発信

資料6
P29～P30